

# 第 14 回 FSP アジア報告書

海外研修期間：2016 年 3 月 5 日～20 日

訪問国：シンガポール、ベトナム

第 14 回 FSP アジア広報班編（岡、幸山、山根）

<はじめに>

この報告書は、北海道大学の「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」であるファーストステッププログラム（通称、FSP）の活動内容を記録したものです。FSPは、夏季と春季にそれぞれ約2週間の海外研修と準備授業と事後の授業と合わせて2単位が付与されます。訪問先は北米、東南アジア、欧州など多岐にわたり、学生は現地の企業訪問、協定校での講義受講や学生交流を通し、国際的視野の獲得を目指します。また、在学中の交換留学や海外インターンへの第一歩となります。

<第14回 FSP アジア概要>

日時：2016年3月5日～3月20日

訪問国：シンガポール（1週間）、ベトナム（1週間）

参加費用：約17万円（+現地での食費等4万～）（JASSOの奨学金支給別途有り）

訪問企業・機関数：のべ11社、3機関

訪問大学・高校：5校

（うち一校は北海道大学文学部研究科の部局間協定大学、一校は北海道大学の全学協定校）

※具体的訪問先については報告書の5ページの訪問報告書に記載

## グローバル・キャリア・デザイン4（第14回 FSP アジア）日程表

シンガポール			行動	宿泊先	
1	2016/3/5	土	9:00	新千歳空港国内線ロビー（JAL）集合	機中泊
			10:00	札幌から羽田に移動（JL504 便）	
			11:40	羽田着	
			12:50	国内線第1ターミナル1F 出会いのひろば 南集合	
			13:00-16:10	羽田 JAL ロードコントロールセンター、スカイ・ミュージアム	
				ロビー集合時間まで自由行動	
			21:30	羽田空港国際線出発ロビー集合	
2	2016/3/6	日	0:05	羽田発（JL035 便）	
			6:45	シンガポール着	
			7:30	空港から借り上げバスで宿泊先に移動	
			8:00-9:00	オリエンテーション	
			9:00 以降	自由課題活動	
3	2016/3/7	月	10:00	寮発	シンガポール NUS High School Boarding School, 40 Clementi Ave1, Singapore, Tel: 6516-1741
			11:00-12:00	日本貿易振興機構（JETRO）シンガポール事務所	
			12:00-13:00	ラオパサでランチ（JETRO 職員と）	
			15:00-17:00	Japan Creative Centre(在シンガポール日本国大使館)	
4	2016/3/8	火	8:00	寮発	
			09:00-11:00	中外製薬 (Chugai Pharmabody Research Pte.Ltd.)	
			12:00~14:00	Ngee Ann Polytechnic でのプレゼン・交流	
			14:00 以降	Ngee Ann の学生とグループ行動	
5	2016/3/9	水	9:30	寮発	
			10:00-16:00	Yale-NUS College（キャンパスツアー、プレゼン、交流、授業見学）	
			17:30	Yale-NUS College の学生と夕食	

6	2016/3/10	木		寮発
			午前	シンガポール国立大学 (NUS) キャンパスツアー
			12:00-13:00	NUS 講義参加
			午後	プレゼンテーション・学生交流
7	2016/3/11	金	8:30	寮発
			09:00-12:00	プライムビジネスコンサルタンシー
			14:00-15:30	早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所
8	2016/3/12	土	08:00-11:00	Reflection Meeting
			11:00 以降	自由課題活動
9	2016/3/13	日	9:30	寮発
			10:00-11:00	JAL シンガポール支店 (チャンギ空港)
			13:15	シンガポールからホーチミンに移動(VN650)

ベトナム		行動		宿泊先
9	2016/3/13	日	14:15	ホーチミン着
				空港からホテルに移動
			15:30	ホテル着
				ホーチミン滞在に係るブリーフィング (10分程度)
10	2016/3/14	月	07:00-18:00	Seed to Table 訪問 (バンチエ省ビンダイ郡)
11	2016/3/15	火	7:30	ホテル発
			8:00-10:00	ベトナム国家大学人文社会科学大学 (ベトナム語基礎講座)
			10:00-12:00	ベトナム文化についての講義
			13:30-16:00	プレゼンテーション・学生交流
			16:30	ホテル着
12	2016/3/16	水	9:00	ホテル発
			9:30-11:00	ESUHAI (KAIZEN 吉田スクール)

ホーチミン  
Bong Sen  
Hotel Saigon,  
117-123 Dong  
Khoi,  
Tel:  
(8) 3829 1516

			14:00-16:00	電通メディアベトナム
			17:00-20:30	Pizza 4 P's (食事を含む)
				ホテルに移動
13	2016/3/17	木	8:30	ホテル発
			10:00~	サッポロビールベトナム工場
			14:00-15:30	クチトンネル見学
			19:00-21:00	ホーチミン在留日本人との懇談会
14	2016/3/18	金	8:30	ホテル発
			10:00-11:00	イオン ビンズオンキャナリー (ベトナム二号店)
			14:00-15:00	在ホーチミン日本国総領事館
				ホテルに移動後 自由課題活動
15	2016/3/19	土	午前	チャンダイニア高校訪問 (プレゼン・交流)
			午後	自由課題活動
			18:00-21:00	Reflection Meeting
16	2016/3/20	日	5:30	ホテル発
			8:15	ホーチミンから成田に移動 (JL750 便)
			15:35	成田着
			18:45	成田から札幌に移動 (JL3049 便)
			20:35	新千歳着

## 訪問報告書

FSP では多くの企業、機関、学校を訪ね、お話を聞くことができました。仕事の話から考え方、生き方のお話、海外の学生との交流。それらを通じて感じたこと、考えたことなどを訪問順にまとめました。

目次	(ページ)
<日本>	
・ JAL ロードコントロールセンター・スカイミュージアム (羽田空港) .....	6
<シンガポール>	
・ 日本貿易振興機構 (JETRO) シンガポール事務所 .....	7
・ Japan Creative Centre(JCC) (在シンガポール日本国大使館) .....	8
・ 中外製薬(Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd.) .....	9
・ Ngee Ann Polytechnic .....	10
・ Yale-NUS College .....	11
・ <sup>1</sup> シンガポール国立大学 (NUS) 人文社会学部日本研究学科 .....	12
・ プライムビジネスコンサルタンシー .....	13
・ 早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所 .....	14
・ JAL シンガポール支店 (チャンギ空港) .....	15
<ベトナム>	
・ Seed to Table .....	16
・ <sup>2</sup> ベトナム国家大学人文社会科学大学 .....	17
・ ESUHAI (KAIZEN 吉田スクール) .....	18
・ 電通メディアベトナム .....	19
・ Pizza 4P's .....	20
・ サッポロビールベトナム工場 .....	21
・ クチトンネル .....	22
・ 懇談会 .....	23
・ イオンモール ビンズオンキャナリー (ベトナム 2 号店) .....	24
・ 在ホーチミン日本国総領事館 .....	25
・ チャンダイニア高校 .....	26

<sup>1</sup> 北海道大学文学部研究科との部局間協定校

<sup>2</sup> 北海道大学との全学協定校

## JAL ロードコントロールセンター・スカイミュージアム（羽田空港）

日本 3月5日

文責 遠藤

## 訪問先概要

JALは2015年に、定時到着率（遅延15分未満で到着した便の率）において、世界第一位を受賞しており、日本のみならず世界で活躍する大手空港会社の一つです。世界各国に海外支店を持っており、今回訪問したシンガポール、ベトナムの両国にも支店があります。しかし、2010年には会社更生法を適用し、事実上経営破たんとなった過去があり、現在は経営再建を果たした後、生き残っていくために多様な価値観から新たなアイデアを生み出していくことに重点をおいて、ダイバーシティ（多様な人材活躍）を目指して運営にあたっています。

## 説明内容

今回は羽田空港にあるJALロードコントロールセンターとスカイミュージアムを訪問しました。北海道大学国際広報メディアを修了した岡部さんと、札幌出身の今野さんに対応していただきました。ロードコントロールでは、座席や手荷物の管理を主に担当しており、それぞれの手荷物の重量や体積から、どのように飛行機に積み込めば効率よく運航することが出来るかを計算し、さらには重心の位置をパイロットに伝達する役割を果たしているそうです。また、オペレーション業務では、天気、国際情報、乗客数、熱量などから、飛行機が定時発着、安全運航、快適な走行ができるように計画を立てて、パイロットに提供する仕事を担当しているのだと教えてくださいました。どちらも実際に働いている様子を見学できたので業務の重要さを実感することができました。

## 所感

ロードコントロールでは一日に飛んでいる飛行機全1000便のうち6~7割を羽田が担当しているということでしたので、とても驚きました。機械をつかって計算しているにしても、とても大変なお仕事だと思います。またオペレーション業務も様々な情報を統合して計画書を作成しているということで、飛行機を飛ばすために多くの努力が必要なのだと感じました。



JALの飛行機にも描かれる鶴のマーク



歴代乗務員の制服（スカイミュージアム）

日本貿易振興機構（JETRO）シンガポール事務所

シンガポール 3月7日

文責 加藤

訪問先概要

JETRO（正式名称：日本貿易振興機構）は日本の貿易推進と対日直接投資に関する事業の総合的な実施と、開発途上国地域の総合的な調査研究を通じて、諸外国との貿易拡大および経済協力を促進し、日本の経済・社会のさらなる発展を目指す独立行政法人です。

説明内容

JETRO では主にシンガポールの概況を、北洋銀行から出向している吉田さんに説明していただきました。シンガポールの政治動向から経済動向まで、幅広くお話を聞かせてもらいました。シンガポールは議会の定数 89 議席中、リーシェンロン首相が率いる PAP が 83 議席を持つ一党独裁です。しかし、政府は過去に比べて政策を「国民寄り」へとシフトしてきているそうです。また、国土面積や天然資源の問題から自国の産業を持たないため、大きな免税で外国企業を呼び込んだり、積極的に FTA を結ぶことで自国の力としているそうです。現在では少ない人手で小さな場所でどれだけ大きな付加価値を生み出すかが大切になっているそうです。

シンガポールでは渋滞を避けるため自動車のナンバープレートの発給制限を行っており、プリウスを持つためには約 1000 万円必要であるなど身近な生活に関するお話もしていただきました。

所感

シンガポールに来て、早い段階で国の概況の説明を聞いてとても興味深かったです。政策を聞いたりすることで、なぜ日本の特定の産業が多く進出しているかなどが分かりました。また、自動車を持ちづらいため、MRT などの公共交通機関が発達しているという風に様々なことを繋がって理解することができました。日本は安心、安全だから高いけど少量の物を売るという点と点を結ぶビジネスのパターンが多く、中間層をターゲットにしたニーズを理解したビジネスをするべきというお話はとても納得できました。



吉田さんとはこの後昼食も共にしました



シンガポールでビジネスすることのお話も聞けました

## Japan Creative Centre (在シンガポール日本国大使館)

シンガポール 3月7日

文責 加藤

## 訪問先概要

JCC(Japan Creative Centre)はシンガポールにおける日本文化に関する情報発信の拠点として、アニメ、マンガ、ファッション、デザイン、アート、建築、科学技術、伝統文化等に関する様々なイベントを実施しています。JCCは2007年の3月と11月に開かれた日本、シンガポールサミットで設置することについての合意がなされました。日本からの提案だけでなく、シンガポールからの要請もあり作られました。

## 説明内容

大使館の仕事と役割、JCCの活動について説明していただきました。そもそもなぜ、文化発信をしていく必要があるかということ「ソフトパワー」のためだということでした。「ソフトパワー」とは、その国が持つ価値観や文化の魅力で相手を敬服させ、魅了することで相手を望む方向へ向かわせるというものです。日本に関する知識や存在感、好感度を広めることは大きい意味で捉えると外交の交渉などに役立つということでした。JCCの具体的な活動も紹介していただきました。科学講演や文化講演、学校訪問をし、茶のデモンストラーションや太巻きを作ったり、紙芝居イベントなども行っているそうです。一方的なものよりも双方向のものの方がイベントの人気は高いとのことでした。

## 所感

JCCの訪問を通して、ソフトパワーの大切さというものを考えさせられました。その国のことについて何かを知っているか何も知らないかでは、外交レベルの交渉でも個人レベルの話でも進み方が大きく異なります。日本は文化という点では、日本特有の誇れるものがたくさんあると思います。それらを通して少しでも日本を知ってもらうことは、必ず日本にとってプラスの方向に働くと感じました。シンガポールでの日本の漫画やアニメの特定の文化発信については、非常に浸透していると研修を通して強く感じました。



文化発信の大切さを教えていただきました



奥の着物も日本文化の一例です

## 中外製薬（Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd.）

シンガポール 3月8日

文責 田中

### 訪問先概要

Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd.（以下 CPR）は中外製薬が保有する独自の新規抗体創生技術を活用し、治癒効果を飛躍的に高める可能性のある抗体医薬品を迅速かつ効率的に創生することを目的にしています。日本国内ではゲノム抗体医薬品、がん、感染症などの治癒薬や診断薬開発に取り組んでおり、国内抗体医薬品のシェアは 36.4%、がん領域のシェアは 19.4%とトップを誇っています。

### 説明内容

シンガポールの政策と CPR の関係、抗体医薬品研究について、北大獣医学部を卒業した松原さんと大倉さんから説明していただきました。シンガポールは札幌市よりも狭いという小さな国土で産業を興すために、2002年に国家戦略としてバイオメディカルを推進し、ハード面では研究開発地点としてバイオポリスを設置し、ソフト面では有名な科学者の招待や優秀な留学生の受け入れ・派遣を行うなどの支援をしています。CPR もこうした最先端の研究インフラと優秀な人材を確保できるバイオポリスにおかれ、迅速な抗体医薬品の研究に取り組んでいるとのことでした。

### 所感

抗体創薬分野でも日々技術が進歩する中で生き残るための競合優位性のある医薬品、新たな価値を生み出す医薬品を作る独自のプロジェクトの 9割はボトムアップであること、そして diversity が merit になりいろいろなアイデアが生まれるという言葉が印象に残っています。中外製薬の強さはそこだけではないと思いますが、優秀な人材が集まり、かついろいろなアイデアが生まれる環境が重要なのだと感じました。



質疑応答



お話して下さった松原さんと大倉さん

## Ngee Ann Polytechnic

シンガポール 3月8日

文責 岡

### 訪問先概要

Ngee Ann Polytechnic (NAP) はシンガポールに5つあるポリテクニク（日本の高等専門学校のような機関で、3年間で diploma を取得できる学校）のうちの一つです。1963年に設立されました。現在では工学、自然科学、社会科学、ビジネスなどの9つの学科に、16000人以上の学生が在籍しています。卒業後、ほとんどの学生は就職もしくは国内外の大学へ進学します。なお、北大の現代日本学プログラムに入学した NAP 卒業生もいます。

### 活動内容

現在授業で日本語を学習している Ngee Ann Polytechnic の学生らと交流をしました。Ngee Ann Polytechnic の学生はシンガポールを紹介するためのクイズを日本語で行いました。北大の学生は北大や北海道を紹介するプレゼンテーションを行い、その後 Ngee Ann Polytechnic の学生と北海道大学の学生で班をつくりゲームをしました。班に分かれた状態で昼食を取り、その後は各班で交流をしました。

### 所感

今回交流をした Ngee Ann Polytechnic の学生らは非常に活発で、親切で、そして勤勉である、という印象を持ちました。今回の FSP で最初のプレゼンテーションと交流会がこの Ngee Ann Polytechnic で行うものであったため、北大側の担当学生らはやや不安を抱えていましたが、現地の学生はとても温かく迎えてくれました。よいスタートを切ることができたと思います。プレゼンテーションもゲームも、積極的に楽しんでもらえました。この後の交流会でも何度も目にする光景ですが、北海道の紹介で「冬の寒さ」「雪」が登場したときの現地学生の感嘆の様子は、熱帯の国ならではの感じました。

昼食以降は5~9人程度の班に分かれて行動しました。ビリヤード場へ行き一緒にゲームをした者もいれば、地元の学生がよく行くという甘味処やショッピングセンターへ行った者もありました。お互いの学生生活の話などをすることもでき、有意義な交流の時間となりました。



皆でプレゼンを見ました



NAP の学生と

## Yale-NUS College

シンガポール 3月9日

文責 幸山

## 訪問先概要

Yale-NUS College とはアメリカのイェール大学とシンガポール国立大学（NUS）が共同で設立した大学で、シンガポール国立大学（NUS）に隣接しています。2013年に開校した新しい大学で、特色はシンガポール初のリベラルアーツカレッジであることです。

## 訪問内容

午前中に北大と Yale-NUS College の学生たちが互いに自分たちの大学を紹介するプレゼンテーションを行いました。その後大学の学食で昼食をいただき、午後からはキャンパスツアーと講義に参加させてもらいました。また、一部の希望学生は午後の時間に外国企業に就職するための履歴書等の書き方についてのワークショップに参加しました。夕方からは学生交流を行い、Yale-NUS College の学生からは音楽の発表、北大からは合気道と少林寺拳法の武術の体験、披露を行いました。夕食は大学内のレストランで Yale-NUS College の学生とともにいただきました。

## 所感

まだ新しい学校というだけあって施設がとてもきれいで豪華で、まるでリゾートホテルに迷い込んだかのように感じました。ほとんどすべての廊下には壁がなく、外とつながっていたのは南国らしく、解放感のあるキャンパスでした。

構内には多くの留学生の姿が見られ、近年叫ばれている大学のグローバル化の先端をいっているという印象を受けました。学校としても夏休みなどの長期休暇の際に海外に行くプログラムをいくつか用意していて、しかもそれが学生に人気で倍率が高いということからも学生の海外志向の高さをうかがえます。シンガポールは公用語に英語が入っており、全ての授業が英語で行われていて大学内でも英語で話すことが普通である環境だったことが、アジアの中での留学先としてのシンガポールの魅力であるように感じました。

参加者の中には Yale-NUS College の学生と SNS で繋がって交流を続けている人もおり、海外の学生とのつながりをつくることのできる貴重な機会でした。自分が海外で学ぶこと、働くことについての具体的なイメージをもつことができ、今自分は何をするべきなのかを考えるためのよい材料になったかと思えます。



Yale-NUS の学生との昼食



交流会

## シンガポール国立大学 (NUS)

シンガポール 3月10日

文責 山根

### 訪問先概要

NUS(National University of Singapore,シンガポール国立大学)は1905年に当初は医学校として設立された、シンガポールの総合大学です。2015年現在で世界ランク第26位と評され、アジアのみならず世界的に見てもトップレベルの大学とされています。訪問先は、北大文学部と部局間協定を結んでいる人文社会学部日本研究学科です。

### 説明内容

NUSの日本の社会についての授業を受け、現地学生による日本の様々な問題や事柄に関するプレゼンテーションを見させてもらったり、その内容などについて一緒にディスカッションしたりしました。また、シンガポールについてのプレゼンテーションもしていただきました。

こちらからは北大についてのプレゼンテーションや武術(合気道・少林寺拳法)の簡単なレクチャーなどを行いました。その他、一緒に昼食や夕食もいただきました。

### 所感

日本語がとても上手な学生がたくさんおり、驚きました。その中には日本で働きたい学生や来月から日本で働く予定だという学生もおり、NUSを訪れる前にもこのプログラムに参加する中でSpeakingやListeningなどの英語能力のなさは十分実感していましたが、彼らに負けないよう自分も英語能力の向上を目指さなければ、とより強く思うようになりました。

また、彼らの日本に関するプレゼンテーションを見せてもらったことで、日本で自分が当たり前だと思っていたことが実は当たり前のことではなかったのだということをひしひしと感じました。



授業の中でのディスカッション



NUSの学生への北大紹介のプレゼン風景

## プライムビジネスコンサルタンシー

シンガポール 3月11日

文責 加藤

## 訪問先概要

プライムビジネスコンサルタンシーの主な事業は大きく分けて二つです。一つはシンガポールへの進出を考えている日本企業のための市場参入に代表される包括的な経営コンサルティング事業です。二つ目が実務経験を有するディレクター、マネジャー、チームリーダーの求人に対する人材紹介、すなわち人事コンサルティング事業です。海外進出を考えている日本企業の市場参入検討の段階から、包括的なオペレーション構築までのコンサルティングをしています。

## 説明内容

今回は事前に送付した質問に、「コンサルティングの業務」のことよりも「海外で働くこと」に対する質問が多かったとのことから、海外で働くことより内面的な部分に焦点を当てたお話をさせていただきました。テーマは「interactive(相互的)であること」でした。

相手を理解したいと真に願っているかが大切となるというお話がありました。一括りにした方がカテゴリー化してしまい易くその人のことを分かった気になれる。しかし、相手を「国民」で捉えず、「個人」で捉えようとするのが真に相手の理解に繋がるというお話がありました。また、「グローバルであること」とは、何かに流されない自分の核や自分自身の幸せの基準を持つことも重要になど海外で働いていく上で大切となる心構えを川村さんの経験を踏まえながら、お話させていただきました。

## 所感

川村さんのお話を聞き、海外で働くためには語学力などはもちろんであるがそれ以外にも、人間力のコアとなるものが大切であると考えさせられました。例えば「approachable(他人が自分に近づきやすい状態)」であることや、相手が何を求めているかを考えられることなどで、今後のキャリアの上で、役立つお話を多く聞くことができたと思います。



NUSの教室で川村さんのお話を伺いました



真剣に話を聞く FSP メンバーたち

## 早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所

シンガポール 3月11日

文責 沼館

## 訪問先概要

早稲田バイオサイエンス研究所は日本の大学として初めての本格的な在外バイオ研究所として、Biopolis というシンガポールにあるバイオメディカル分野の国際的な拠点に設立されました。この研究所の特色の一つは、シンガポール国立大学 (NUS) をはじめとするシンガポールの大学からの研究者や、民間企業とも連携する産学連携の体制をとっていることです。研究所内の3つのグループが「薬」「ナノ」「細胞」などをテーマとして研究を行っています。

## 説明内容

ここでは、主任研究員の一人である北口哲也さんに自身のキャリアと研究内容について説明していただきました。北口さんは自身の研究室を持つ約15年の間、国内外問わず様々な研究所で活動されてきた方です。北口さんは各地で研究活動を続けてきた方ですが最終的には日本で自身の研究室を持ち研究をしたいとおっしゃっていました。その理由の一つは日本の研究者は丁寧な仕事をするからだそうです。北口さんは現在、細胞や個体の動きの様子をその活動具合から色分けして観察できるようにするための研究を行っています。他にも、研究室の様子を実際に見せていただきました。様々な用途で使い分けられる多数の顕微鏡や、研究のために重要な標本を見せていただきました。

## 所感

北口さんのお話の中から、研究者として活動していくには与えられた環境でいかに自分の興味や関心を見つけていくかが重要であると感じました。研究室の中には自分の主な研究分野から離れた研究室もあったようです。しかし、その分野で自分の研究分野へどのように近づけていくかという作業に魅力を感じたと北口さんはおっしゃっていました。このような体験談と考え方について実際に研究者として活躍している方から聞くことができたのは貴重な機会でした。

JAL シンガポール支店 (チャンギ空港)



訪問先見学



質疑応答の様子

シンガポール 3月13日  
文責 遠藤

### 訪問先概要

JALは2015年に、定時到着率（遅延15分未満で到着した便の率）において、世界第一位を受賞しており、日本のみならず世界で活躍する大手空港会社の一つです。世界各国に海外支店を持っており、今回訪問したシンガポール、ベトナムの両国にも支店があります。しかし、2010年には会社更生法を適用し、事実上経営破たんとなった過去があり、現在は経営再建を果たした後、生き残っていくために多様な価値観から新たなアイデアを生み出していくことに重点をおいて、ダイバーシティ（多様な人材活躍）を目指して運営にあたっています。

### 説明内容

今回の訪問では、担当いただいた西嶋さんから、JALでの一風変わった業務内容について知ることが出来ました。西嶋さんは大学を卒業したのちJALに入社します。最初に配属された成田荷物支店では届いたものの保存や品質管理だけでなく、なんと動物のお世話もされていたそうで、当時は想像もしなかった仕事内容に驚かれたそうです。その後も社内報を書いたり、国際線予約を担当されたりと、様々な業務をこなしていく中で、成田荷物支店でインコに餌やりをしているときに先輩に言われた「どんなつまらない仕事でも会社のクオリティーにつながるんだよ」という言葉を実感されたとお話ししてくださりました。

### 所感

西嶋さんは本当に気さくな方で、ご自身の経歴を事細かく語ってくださいました。お話の中では、就職する際には会社の実情を知ることが大切であることや、海外では日本の常識は必ずしも常識ではないということをご自身の経験と一緒に教えてください、とても勉強になりました。どんな仕事内容でも会社のクオリティーのためには必要不可欠なのだという言葉は、私も大切にしたいと思います。



大企業ならではの部署異動のお話も聞けました



最後に学生の代表が挨拶をしました

## Seed to Table

ベトナム 3月14日

文責 加藤

## 訪問企業概要

Seed to Table は特定非営利活動法人で、次の世代に守られてきたタネ、タネをはぐくむ豊かな自然、そしてタネを守り育てつないできた知恵や文化を伝えたいという考えから、各地域に伝わる在来のタネの発掘と活用、生態系に配慮した農業、自然資源の持続的な管理を中心に、在来の資源を活かした地域づくりを実施しています。ベトナムはコーヒーやコメの輸出量が世界で第二位という農業大国ですが、農家の収入は低く、自然破壊も進んでいることから、農村での生活の暮らしの改善を目的としてベトナムで活動しています。

## 説明内容

今回は Seed to Table の代表である伊能まゆさんに、ベンチェ省ビンダイ郡の農村へと実際に連れていっていただき現地の農家の方のお話を聞き、また、有機栽培に成功した畑を実際に見せていただきました。この地域での Seed to Table の活動は、貧困からの脱却を目指す農家の支援です。アヒルの貸し付けや牛の貸し付けを行い、産まれた子は飼い主の所有になるという支援や、有機栽培の指導を行っているそうです。一時的な財政支援だけでは残る知識や財産がなく、貧困からの脱却は難しいとのことでした。一から始めた有機栽培も今では、高価でも人気の商品となっているそうです。村の人の苦労や思っていることを伊能さんが通訳して下さり、貴重なお話を聞くことができました。

## 所感

貧困からの脱却を目指す、または成功した農家に訪れて話を直接聞くというのは普段なら絶対にできない経験でとても貴重なものとなりました。今回の訪問で、支援を行う時に実際にその場所を訪れて話を聞き、状況を理解することがどれだけ大切なことかが分かりました。財政支援を行うだけでは根本的な解決にならない場合があるというのを、肌で感じることができました。農村の方が訪問をもてなしてくれたのも非常に嬉しかったです。



有機農家さんのお話



有機野菜を使った食事づくり

## ベトナム国家大学人文社会科学大学

ベトナム 3月15日  
文責 岡

## 訪問先概要

ベトナムに2つある国家大学のうちのひとつであり、経済発展の中心地であるホーチミン市内にあります。1995年に設立されました。工科大学、自然科学大学、人文社会科学大学、国際大学、情報工学大学、経済法政大学の6つの大学から構成されており、2016年2月現在35000人以上の生徒が学んでいます。北大の全学協定校です。

## 活動内容

ベトナム語基礎講座にて、ベトナム語で挨拶、自己紹介、数字、ベトナム語の歌などを学びました。その後ベトナムにおける女性と家族形態についてのプレゼンテーションがあり、日本との文化比較が行われました。午後はベトナム国家大学の学生が主体となり、日本語や日本文化を学んでいる団体「とうにちクラブ」のメンバーらと交流会を行いました。

## 所感

ベトナムに来て、英語とは違い、これまでほとんど耳にしたことも無ければ、読もうとしたこともないベトナム語に接触する日々が続いていました。言語であるという認識すら薄い状態でそれまで過ごしていましたが、この日ベトナム語講座を受けたことで、やっとそれがコミュニケーションのツールであるという実感がわきました。言語を学ぶ楽しさを改めて確認できました。ベトナムにおける女性・家族形態の変遷は、日本のそれと似ており、アジアの文化の根底は同じなのだなと感じました。

とうにちクラブのメンバーとの交流会では、彼らの日本語能力の高さに驚かされました。英語よりも日本語を熱心に勉強している学生が多いのも印象的でした。交流会でのゲームは非常に盛り上がりました。個人的に一番面白かったのは、みんなの名前をドラえもん歌の歌にのせて歌うゲームです。聞きなれない名前を覚えるのはお互い難しかったです、楽しんで交流することができました。



一緒にゲームをして楽しみました。



最後に一緒に記念撮影

## ESUHAI (KAIZEN 吉田スクール)

ベトナム 3月16日

文責 遠藤

## 訪問先概要

ESUHAI は、日本のテレビ番組でも取り上げられたりと、現在アジアで大きく注目されている会社の一つです。この会社では、将来の目標を具体的に決めているベトナム人が、最大のパフォーマンスをすることが出来るように「人財」育成を行っています。KAIZEN 吉田スクールは ESUHAI の経営する学校で日本に働きにいきたいベトナム人に日本語や日本文化を教えています。ベトナム人学生が日本語や日本の企業文化、考え方の教育を受け、技術実習生として日本に派遣された時には、工業製造業や食品製造業、縫製業などを通じた技術・技能の向上、経験の取得が出来ることを目標にしています。このようにして日本においても即戦力となるような、エリートベトナム人技術者となるまで育て、日本の企業や、ベトナムの社会を発展させるために貢献できるような「人財」を多く輩出しています。2015年においては、累計 3500 人の卒業生を輩出しています。

## 説明内容

ベトナムの平均年齢は約 27 歳。日本の平均年齢は約 45 歳。このことからわかるように、ベトナムには若い働き手が多くいます。ただ、ベトナムでは公務員でも月給だと月収わずか 2 万円程度と、生活が厳しいのも現実です。ESUHAI では、技術者を求める日本と、技術を学びたいベトナムが win-win の関係になるように、日本での技能実習を志望するベトナム人をお手伝いする仕事をしているのだということが分かりました。

## 所感

文化も生活背景も言語も気候も違うベトナム人に、日本のビジネスマナーを教育し、育成していくのは大変な仕事だと感じました。私も ESUHAI の社長の「日本の最高の資源は人材なんだ」という言葉に反しないような人間になれるよう頑張りたいです。



日本語初級クラスで学ぶベトナム人学生



大卒クラスで日本語中級の学生

## 電通メディアベトナム

ベトナム 3月16日

文責 沼館

## 訪問先概要

電通は日本の大手総合広告代理店です。電通メディアとは電通の海外におけるメディア・エージェンシー・ネットワークで、電通ブランドのエージェンシーの一つです。電通メディアは世界 13 の国と地域で業務展開しています。電通メディアベトナムの他、ベトナムには他に電通グループの会社 2 社「電通ベトナム」「電通アルファ」があり、市場調査といったマーケティングや顧客への広告戦略の提案の業務をしています。

## 説明内容

ここでは、主にメディアとは何か、電通・電通メディアベトナムはどんな会社なのか、など電通という会社について説明していただきました。依頼主が代理店に頼んでくるということは、代理店は依頼主以上に頼まれたことに関してその周辺の知識も含め多くのことを知っている必要があります、電通にとってそれはメディアに関する知識であるそうです。電通メディアベトナムは電通グループの 2 社と協力してベトナムで事業を展開しています。基本的には電通本社と事業スタイルは変わらないようなのですが、すべてが日本流で通用するわけではなくベトナムで事業を行うにあたり苦労は絶えないそうです。

## 所感

自分が想像していた会社と違ったという印象です。この企業を訪れるにあたり、事前に本やインターネットで情報を集めてみましたが実際にお話を伺うと自分の予想とは異なるお話が多かったです。このような経験は今回の企業訪問に限らずほかの場面でもありましたが、今回の訪問を通して、二次情報だけではなく一次情報を集めてみることの重要性をより強く感じました。また、人の話を聞く際に相手についての予備知識の量がその話から得られるものの質の高低に関係することも感じました。



AGENCY OF THE YEAR の受賞記念品が飾られていました



情報の大切さを教えていただきました

## Pizza4P's

ベトナム 3月16日

文責 沼館

### 訪問先概要

このお店は日本人の益子陽介さんが経営している本格的な窯焼きピザのお店です。現地のベトナム人の方に人気のお店でベトナム版の食べログで第1位を取った実績があります。このお店が開業するまではベトナムに窯焼きピザを出すお店はなく、益子さんはそこに目を付けたそうです。益子さんは最終的にプライベートアイランドで、ピザ作りや持続型農業を体験して学べる施設をつくることを目指しているとのこと。

### 説明内容

まず、益子さんの半生についてお話を伺いました。益子さんがベトナムで起業するために考えた窯焼きピザというアイデアは安易な思いつきではなく、ある程度の知識と経験を積んでいたから実行したアイデアでした。日本に住んでいたころに自宅にピザ窯を作った経験があり、その時焼いたピザが人々の交流に役立つものであると実感したそうです。また、益子さんは起業家として組織をまとめていくとき、周りの人と一体感や信頼を大切にしているそうです。その他にも、個々人が興味を抱いた多様な話題について Pizza4P's の料理をいただきながら伺いました。

### 所感

起業家はその人自身の力量がかなり問われると考えていましたが、成功するスタイルはそれだけではなく周りとの協力で大きな力が生み出せるというスタイルもあることは意外でした。また、益子さんのお話で印象的だったのは、人生の転換点になりそうな選択を何となく決めたわけではないということです。益子さんの経験は、ラグビーの海外遠征やサイバーエージェントで多数の経営者と面談など、豊富でそれらの貴重な経験の一部をその後生かしているということです。自分も多様な挑戦をして将来につながる経験をするべきだと思いました。



Pizza4P's 一番人気のピザ



食事を囲んでお話を聞きました

## サッポロビールベトナム工場

ベトナム 3月17日

文責 田中

## 訪問先概要

ベトナムはアジアにおけるビール消費量で中国、日本に次いで3位で、2010年にサッポロ・ベトナム・リミテッドを設立し、サッポロビール初の海外工場をベトナムに完成させました。ビールの初出荷は2011年で、現在は年間4万KL生産していますが、2019年までに15万KLの生産を目指しています。

## 説明内容

ベトナムの傾向とそれに合わせたビール造りや工夫をお話してくださいました。

現在のベトナムの人口は30歳未満が6割を占めており、ピークは約30年後で多くの分野で成長が見込めます。ベトナム南部の人は酒が好きですが、苦いのはあまり好きではない、一気に飲みをしたがる、ビールに氷を入れる、とにかくたくさん飲む、なまものを嫌うので生ビールがあまり受け入れられないことなど、日本と異なる点がいくつかありました。また、ベトナムでは転職してキャリアアップするという考え方が一般的だそうで、いかに仕事ができる人に残ってもらえるようにするかに心を砕いていることが覗えました。

## 所感

一番苦労することは食品衛生と安全管理について教えることだということが印象に残っています。日本においても最も重要なことの1つですが、トイレのあと手を洗う、立ち小便をしない、靴を履くなど、日本では当たり前かもしれませんが、ベトナムではそのような衛生・安全管理にあまり気を付けない人も少なくないそうです。そこから教育するのは大変だと思いました。

ベトナム人に合わせたビール造りを模索する一方で、日本の生ビールのおいしさを理解してもらい、将来的には生ビールを販売できるようにしたいという方針とのことでしたので、今後のサッポロビールに注目していきたいです。



プレゼンテーションと質疑応答



ビール工場見学

ク  
チ  
ト  
ン  
ネ  
ル  
ベ

トナム 3月17日

文責 岡

### 訪問先概要

クチトンネルはホーチミン市のクチ地区にある、巨大な地下の網状のトンネルです。ベトナム戦争中に軍事行動の拠点として使われ、特に「ベトコン」(=南ベトナム解放民族戦線。共産主義を掲げ、米軍・北ベトナム政府軍と戦うゲリラ部隊を含む兵組織)の戦略基地となっていました。現在では、トンネル内での当時の生活の様子や、使われた武器・罠などを展示する戦争史跡公園となり、多くの観光客が訪れる場所となっています。

### 活動内容

ベトナム人のガイドさんと戦争史跡公園内を回りました。ベトナム戦争の説明ビデオを見たあと、トンネルの入り口や内部の見学をしました。また、実際に使われていた落とし穴等の罠、爆弾・やり等の武器、トンネル内にあった施設の様子などの展示をガイドさんの解説とともに見ていきました。当時の主食だったキャッサバの試食もしました。

### 所感

戦争、というと日本で教育を受けてきた私達にとっては悲惨なイメージしかありません。平和の教育では、勝とうと負けようと戦争は悲惨なのでしてはいけない、というように教えられます。広島平和記念公園を訪れたこともあり、クチトンネルもそのような「戦争の経験から得られた反省から、平和を願うため」の施設だと勝手に思っていたのですが、全然違いました。あくまでもクチトンネルは戦争史跡公園であり、そこで行われていたことを残し、国民や観光客に対して情報を提供する場です。そこに悲惨さはあまり感じられませんでした。見方によっては、「ベトコン」たちは巨大な敵を相手に、これほど根気強く、賢く抵抗をし続けたということ誇っているようでもありました。感じ方は人それぞれだとは思いますが、人の生きようとする思いの強さをひしひしと感じる場でした。

ホーチミン市内からクチトンネルまではバスで1時間以上かかるのですが、その間、ガイドのラムさんはご自身の経験を含めたベトナム戦争のお話をしてくださいました。そのなかで、「共産主義でも資本主義でも構わない、平和であるなら」と仰っていたのが印象的でした。



実際に米兵が使っていた戦車と



トンネルに入る参加者

## 懇談会

ベトナム 3月17日

文責 山根

### 概要

電通初の女性クリエイティブディレクターで様々な活動をされている岡村雅子さん、住友商事で事務職から基幹職に転向され現在はベトナムのメコンエナジー社に出向されている鳴川万希子さん、フランス語学留学中に現地 NGO に参加され現在は JICA で活動されている中山隆二さん、北大出身で、学生時代に 35 カ国を訪問し現 KDDI ベトナム ホーチミン支店に勤務してらっしゃる石田崇さん、以上四名の方をお招きして一緒に夕食を囲み、お話を伺いました。

### 内容

それぞれの方から、人生経験やキャリア、現在のお仕事やベトナムを始めとする海外での体験などについてもお話を伺いました。三つのテーブルに分かれて食事をしていたため、内容はテーブルによって様々でしたが、アドバイスやエールを送っていただいたテーブルや学生が人生相談させてもらうテーブルも現れるなど大いに充実した懇談会となりました。

### 所感

私は石田さんと中山さんとご一緒させていただきましたが、お二人とも本当に人生を楽しんでいるなというふうに感じました。本当に様々な体験をされていて、中にはとても大変な経験もされているのに、体験談をお話してくださるお二人はとても生き生きとしていて、どんなときでも前向きに歩いてこられたのだなというのがお話の内容からも、話しているときの様子からも伺え、私もそんな風に常に前向きに楽しんで生きていきたいと思いました。



岡本雅子さんを囲むテーブル



鳴川万希子さんを囲むテーブル



中山さんと石田さんを囲むテーブル



集合写真

## イオンモール ビンズオンキャナリー (ベトナム 2号店)

ベトナム 3月18日

文責 田中

## 訪問先概要

2014年にイオンモールのベトナム1号店が開店し、2016年夏にも4号店が開店する予定です。海外のイオンモール型商業施設としてはマレーシア、中国に続いて3か国目で、マレーシア、中国ではともにイオン・イオンモールが合わせて30店舗以上展開しています。ベトナムでは総合スーパーという概念がなく、地元小売店からは郊外に買い物にくるはずがないと言われていましたが、開店後大反響を呼びました。

## 説明内容

今のベトナムの人口ピラミッドは1960年代の日本に似ており、増加する中間層をターゲットにホーチミン、ハノイ郊外を中心に店舗を次々と増やす予定とのことでした。ベトナムはバイク社会であり、約9割の方がバイクで来店するので、フリーバスや宅配サービスも検討しているそうです。他のスーパーとの差別化としてサービス向上を挙げていました。笑顔であいさつをするなど、日本流のサービスをベトナムでも行い、信頼と満足を獲得しようと模索していることをお話ししていただきました。

## 所感

冷蔵庫など電化製品が普及していないので、それに合わせて加工食品が売れる、電化製品売り場をメーカーごとに作るなどの工夫を行っていることがわかりました。イオンにおいても、転職するのが普通のベトナム社会でいかに優秀な方をつなぎとめるかに注意しているとのことで、日本とは随分違うことに驚きました。また、他の人の前では怒らない、注意しないなどプライドを傷つけない配慮など参考になることも多々ありました。



ベトナムイオンの紹介プレゼンテーション



モール内見学

## 在ホーチミン日本国総領事館

ベトナム 3月18日

文責 遠藤

## 訪問先概要

総領事館の仕事は主に「自国民の保護」「査証の発行」「親善交流の企画」の三つです。在ホーチミン日本国総領事館では、安全対策情報を定期的に発信したり、ベトナムの市場経済化のためのビジネス教育、日本語教育を実施したりしています。他にも「草の根・人間の安全保障無償資金協力」という活動を行っていて、ベトナムの人権を守るために、人道上機動的な支援が必要な案件を中心として、1000万円以内の小規模な無償支援をしています。

## 説明内容

在ホーチミン日本国総領事館では、国益追求のための対外関係を構築するために様々な活動を行っていることが分かりました。10あるものに付加価値をつけて、お互いが6ずつとったと思えるような外交を行う、というのが外交の理想だというお話をお聞きしました。良好な関係を築くために、日本の新しい政策や法律について誤解がないように説明を行うこともあるとのことでした。さらに日本に貢献するだけでなく、ベトナムでの人道的支援活動である「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を行うなど、現在少しずつベトナムの社会にも貢献できているということが分かりました。

## 所感

日本からの資金が少ない中で、ベトナムとの親交を深めることがいかに大変かということが分かりました。さらに日本の正しいイメージ作りのために活動したり、ベトナムの社会の発展のために病院の器具整備や校舎建築、給水システムの整備を行ったりするというお話を聞き、一言に「良好な関係を築く」といっても多くの労力が必要になってくるのだと改めて実感しました。



集合写真



領事館の外には日本のビザを求め多くのベトナム人の姿が

## チャンダイニア高校

ベトナム 3月19日

文責 幸山

### 訪問先概要

ベトナムのホーチミンにある高校。実際に交流したのは高校の日本語クラブのメンバーの皆さんでした。北海道の札幌開成高校とは姉妹校です。札幌開成高校出身で現在ホーチミンに在住し、今回FSPアジアをサポートして下さった後藤田さんが支援している高校です。北大の現代日本学プログラムの学生リクルートでも訪問している高校のひとつです。

### 訪問内容

まずチャンダイニア高校の学生によるダンスの披露があった後、北海道大学の学生から大学の、チャンダイニア高校の生徒から高校の、それぞれプレゼンテーションを行いました。その後学生交流としてジェスチャーゲーム、音楽発表、絵の伝言ゲームなどを行い、親睦を深めました。

### 所感

ベトナムではじめて訪問した高校でしたが、歓迎してくださってうれしかったです。高校の生徒からの学校紹介によると日本語クラブは創立からまだ3年と新しいクラブですが、ジブリ作品鑑賞会などの活動を通じて日本や日本語について学んでいるそうです。ここでも世界における日本のアニメ文化のあり方を感じることができました。

チャンダイニア高校の生徒との会話は基本英語でした。高校生とはいえ、とても上手に英語を話し、自分が高校生だったころにここまで英語を使えなかっただろうと思います。

私たちを迎えてくれたのは日本語クラブの生徒でしたが、このクラブ活動について、チャンダイニア高校で特徴的だと思ったのはスポーツのクラブがほとんどなく、代わりに言語のクラブ（日本語、英語、中国語、フランス語など）が豊富にあったことです。学校として言語教育に力を入れているのか、それとも国、市が力を入れているのか、詳しいことはわからなかったのですが、彼らが将来のベトナムを築いていく人材として言語力が大きな強みとなるだろうと感じさせられ、同時に、自分の語学力を向上させていく刺激を受けました。

一方で校庭では多くの生徒がバスケットボールで元気に遊んでいたのも、高校生らしい一面も垣間見ることができたのでよかったです。チャンダイニア高校の生徒は今年の6月ごろに北海道に来る方向で現在調整中らしいので、その時にまた会えるといいなと思っています。



チャンダイニア高校の生徒たちと



プレゼンテーションの様子

## 参加者の声

今回 FSP アジアに参加した 18 人に対し、海外研修後にアンケートをとりました。学生は、このプログラムによって何を感じ、何を得たのでしょうか。

(このアンケートには複数回答があることをご了承ください。)

### 【FSP アジア参加者の情報】

参加者合計 18 人

(内訳 ・男女 男 9 人 女 9 人  
 ・学年 一年生 11 人 二年生 7 人  
 ・文理 文系 7 人 理系 11 人 )

学部	総合理系	文学部	農学部	法学部	経済学部	歯学部
人数 (人)	6	4	4	2	1	1

### Q1 FSP に参加した理由はなんですか？特にアジアを選んだ理由は？

FSP の存在は「先輩、友人の紹介で知った」「たまたま見つけた」人が多かったのですが、ほぼ全員が将来留学したい、海外で働きたいなど、「海外に行きたい」という気持ちを持っていました。アジアに参加した理由としては「発展著しい東南アジアに行きたかった (7 人)」「参加費用が安い (6 人)」などがあがりました。また、今回が初めての海外という学生は 8 人いました。

### Q2 FSP に参加する上で不安だったことは何ですか？それは結果どうでしたか？

参加者の不安で最も多くの人があげていたのは「準備課題 (10 人)」でした。準備課題があるというのは FSP の特徴ですが、元参加者からの口コミなどで大変だ、と聞いていた人もおり、懸念していた人が多かったようでした。今 FSP を終えて、「なんとかなった (5 人)」「やっぱり大変だった (3 人)」「もっとしっかりやればよかった (2 人)」と感じていると回答しました。

「安全、衛生面 (5 人)」も挙げられました。初めての海外、初めての途上国、という人もいた中で、安全や衛生面に不安を抱くのも無理はないと思います。では行って見てどうだったかということこれも「なんとかなった」です。もちろん事前準備の段階でその国の安全情報、衛生情報は調べ、危機管理は自分で責任をもって行うのですが、「危険すぎる場所に授業でいくわけがない」「生水を飲まないなど自分で予防策をはる」とのことでした。

また、「FSP 人間関係」と答えた人は 4 人でしたが、結果としては「みんなと仲良くなれて楽しく過ごすことができた」とのことでした。そのほか「金銭面」と答えた人もいましたが、アジアはそもそも比較的安く行けることに加え、日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金 (全員) と新渡戸カレッジ奨学金 (一部の人) が支給されたこともあってか、2 人にとどまりました。

### Q3 参加した感想はどうでしたか？

FSP に参加して、「海外の学生、社会人と交流して刺激を受けた。英語、専門分野含め勉強意欲が高まった (8人)」「楽しかった！ (7人)」「自分自身を考え直した (6人)」と感じた人が多かったようです。これらは研修中の Reflection meeting の際にも出た話でした。優秀な学生を目の当たりにして、英語で交流してみて、自らの英語力を向上させたい、専門の勉強を頑張りたいと考えた人は多かったです。また企業の方のお話を聞く、ということを受け身要素が強いように思われるかもしれませんが、その内容を自分の中で消化していく際に、自分の将来、人生について考えた人が多かったように感じました。

そのほかの意見としては「海外で働くこと、留学についてイメージが膨らんだ (2人)」、「視野が広がった (2人)」「東南アジアの見方が変わった (2人)」などという結果になりました。中には「自分の価値観、幸せの基準、これからの人生を本気で考えました。まさか。こういった方向のことを考えるとは思っていませんでした。」という回答もありました。

正直、この質問の回答はさまざまにまとめるのは難しかったです。おそらく答えるほうもいろいろありすぎて答えにくかったかと思います。ただ、共通していえるのは全員がこの研修を「いい経験だった」と思っていることでした。

#### **Q4 印象に残っていることは何ですか？ (プログラム全体として)**

全体で一番多かった意見は「ベトナムでの懇談会 (6人)」でした。一緒に食事をしながらのお話だったため気軽に質問できた、より深い話ができ、自分の将来について考えさせられた、などの声があがりました。

企業訪問を挙げた人の中で最も多かった意見は「Seed to table (5人)」でした。ベトナムの農村訪問で貧困世帯を目の当たりにして衝撃を受けた、自分には何ができるのかを考えさせられたなどの意見がありました。

大学訪問をあげたのは3人でした。自分たちの力の全く及ばない人たちと出会った、絶対留学したいと思うようになった、など、実際に海外の大学に足を運んだことで感じたものがあるようでした。

その他の意見としては「それぞれの国の日常の一コマ」「ベトナムの活気」「(将来研究者としてのキャリアを積みたいと考える学生から)研究者として働いている人に実際に会えたこと」「体調不良になったこと」などがあがりました。

#### **Q5 自由課題活動で一番印象に残っているところ、またその理由は何ですか？**

有名な観光地というよりも街なみの散策など日常を垣間見れたことをあげた人が6人と一番多い結果となりました。その中で「本屋に行ったこと」と答えた学生は、「シンガポールとベトナムの本屋。両方の国で行ったけど、日本の漫画の進出具合などがわかって面白かった。価格や紙質の違いなど。」と回答しました。

有名観光地ではシンガポールでは「セントーサ島 (4人)」「動物園 (2人)」「ガーデンズバイザベイ (2人)」などがあがりました。ベトナムではあまり自由課題活動の時間がなかったためか、言及した人はシンガポールに比べて少なかったですが、「戦争証跡博物館」「クチトン

ネル」などベトナム戦争にまつわるところの答えがありました。

#### **Q6 今後 FSP への参加を考えている人に参加を勧めますか？またその理由は？**

この質問は「1 大変強く勧める」、「2 まあまあ勧める」、「3 ふつう」、「4 そんなに勧めない」、「5 全く勧めない（行かないほうがいい）」の選択式としました。

その結果「1 大変強く勧める（13人）」「2 まあまあ勧める（4人）」で、17人がFSP参加を考えている人には参加してほしいと考えていることがわかりました。その理由としては「FSPに参加することで得られる経験（単に旅行するだけでは得られない経験）がある（6人）」「自分自身を見つめなおす機会になる（6人）」があげられました。この「FSPに参加することで得られる経験」とは、多くの方が「企業の方、学生などたくさんの方のお話を聞く機会があること」と言っていました。中には「20人程度の大人数で行くことで友達が増えたとし、他のメンバーと将来について話したり考えを共有したりする過程もFSPの魅力だ」という意見もありました。

また、ただ一人「3 ふつう」と回答した学生がいました。その方は「『なんとなく今の自分じゃダメな気がする、現状を打開したい、とにかくなにかしたい！』という方にはお勧めしません。将来やりたいことが決まっていて、どうするべきかもわかっている方は、FSP参加よりもそちらに向けた努力をするべきだと思います。」とその理由を書いていました。

#### **Q7 今後参加する人に向けて一言！**

最後に何か一言お願いします！と、この質問をしました。「迷ってるならとりあえずチャレンジ！」と背中を押しているコメントは7人、「実りある研修にするためにも事前準備をしっかりとってください」というコメントが5人、「体調管理をしっかりとしましょう」「楽しんでください！」というコメントがそれぞれ2人ずつでした。

FSPは楽しいだけではなく大変なこともあります。一緒に参加する仲間との出会いがあり、毎日何かしらの刺激を受け、また自分を見つめなおす機会になり、いい経験になります。行って後悔はないと思います。FSP参加を迷う事情は人それぞれかと思いますが、せっかくあるチャンスなのでぜひ自分の意志でつかんでほしいです。

## まとめ(全体の感想・謝辞)

密度が濃くあっという間の二週間でした。他国の文化に触れ、いろいろな方からお話を伺い、仲間との会話に触発され、視野が広がったり、価値観が変わったり、自分の今や将来について見つめなおしたり…感じたこと・思ったことは人それぞれでしょうが、皆何かしらの刺激を受けたのではないかと思います。

シンガポール・ベトナム訪問は終わりましたが、First Step Program という名前の通り、これは自分をステップアップさせるための第一歩にすぎません。これからは各々が自分で何をすべきかを考え、歩んでいく時間だと思っています。「刺激を受けた」で終わらないよう、この経験を今後どう生かしていくのかしっかり考えて行動していきたいです。

私たちのために時間を割いてくださった訪問先企業の皆様、現地で温かく迎えて下さった学生の皆さん、対応して下さった JTB の皆様、ベトナムでサポートして下さった後藤田さん、引率して下さった国際本部の正木先生と川端先生、そして一緒に2週間の時を過ごした FSP メンバー及び今回の FSP プログラムに携わって下さったすべての方々、本当にお世話になりました。これからこのプログラムを利用する後輩たちのために、今後も何らかの形で FSP に関わっていただければ幸いです。最後にこれらの方々に深謝し、この報告書を終わりたいと思います。ありがとうございました！

私たちの活動は Facebook や Twitter でも発信していますので、興味のある方は下記の QR コードからアクセスしてみてください！

2016年3月25日 広報班 山根美海

Facebook

Twitter



第 14 回 FSP アジア 全体報告書

平成 28 年 4 月 20 日

編 集  
問合せ先

記録広報班（岡、幸山、山根）

北海道大学国際本部国際教務課

電話（011）706-8040/8032

Email: [ambitious@oia.hokudai.ac.jp](mailto:ambitious@oia.hokudai.ac.jp)

Facebook <https://facebook.com/hokudai.fsp14thasia>

Website: <http://hokudai.fsp.web.fc2.com/index.html>